



みなさん、こんにちは。

業務紹介第8弾として建設機械分野の業務内容を、総合政策局公共事業企画調整課 鶴岡係長（入省6年目）より語っていただきました！



鹿野川ダム視察の様子

（総合政策局公共事業企画調整課 鶴岡係長（入省6年目））

1. 建設機械の業務の国交省における役割を教えてください。

人口減少及び少子高齢化が他産業と比較して高い水準で進行する建設業では、生産性向上が喫緊の重要な課題です。そのため建設機械分野では、

- ・ドローン等を活用した測量
- ・3D データ等を活用した設計
- ・ICT を活用した施工（現場での工事）
- ・AI やロボット等を活用したインフラの維持管理 等

従来、人間が長時間かけて行っていた作業をデジタル化させるなど（いわゆる DX など）、事業を効率的に進めていくための施策を『機械』の観点から行うことが我々の役割です。

また、その他にも水門や排水ポンプ等の河川機械設備の維持管理・更新やショベルカー、ブルドーザ等の環境対策等も担っております。

2. 現在の目玉施策を教えてください。

今後急増が見込まれる河川ポンプ等の老朽化、近年の水害を受けて要望が高まる排水ポンプの新設・増設に対応すべく、大幅なコスト縮減やメンテナンス性の向上のため「マスプロダクト型排水ポンプ」の検討を行っています。

従来、排水ポンプで使用されていた船用エンジンから汎用品の車のエンジン（三菱自動車工業（株）、（株）豊田自動織機、三菱ふそうトラック・バス（株）より提供いただく予定）に置き換えるなど、自動車業界とポンプ業界が初めて異業種連携を行うことで、イノベーションを促進することとし、大幅なライフサイクルコストの縮減とメンテナンス性の向上を目指す取組を行っています。



3. ご自身が担当されている業務内容について教えてください。

最近の動きとして、第 203 回臨時国会の所信表明演説において、菅内閣総理大臣は「2050 年までに、温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、すなわち 2050 年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指す」ことを宣言しました。そこで、ショベルカーやブルドーザーなどはじめとした「建設機械」についても、カーボンニュートラルの実現に向け、関係機関との調整やさまざまな検討を行っております。

その他、上記に記載している、「DX 関係施策」や「マスプロダクツ型排水ポンプ」等の業務も担当しております。

4. 苦労する点や、やりがいについて教えてください。

近年、激甚化・頻発化する豪雨災害等から国民の命と暮らしを守るためのインフラを支えることに大きなやりがいを感じることができます。また本省では政策に係る予算や技術基準類などの企画立案・策定を行います。自分が携わった仕事が全国各地の道路・河川事務所や工事現場に影響を与えます。そのため、関係者との調整や慎重な検討が求められる一方で、影響力のある仕事に携われるといった魅力もございます。

5. 国土交通省を目指す方へのメッセージをお願いします。

建設業における人口減少・少子高齢化の進行やインフラの老朽化といった大きな課題に対し、従来の考え方からパラダイムシフトを図り、課題解決していくことが求められます。

このような大きな課題に立ち向かい、建設業における更なる生産性向上を図るとともに国民の命と暮らしを守っていききたいといった熱い思いを持った皆様のチャレンジをお待ちしております。



会議での発言の様子（右が本人）



遠隔操作式水陸両用重搬送車両